

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	中村 のりゆき
視察地	加古川市		
調査事項	部活動地域展開に向けた取組について		
視察年月日	令和7年11月12日		
視察内容	<p><b>【1. 視察の目的】</b> 少子化、教員負担、生徒ニーズ多様化により部活動維持が困難化。加古川市の地域クラブ「かこ☆くら」への移行を参考に、旭川市の地域移行検討に資するため視察を実施。</p> <p><b>【2. 加古川市の現状・課題】</b> ・生徒数減少により部活動維持が困難（10年で26%減見込み）・学校間格差、専門指導者不足 ・教員負担増（時間外・専門性）・生徒ニーズの多様化（新規種目希望多数）</p> <p><b>【3. 主な取組と特徴】</b> ・地域移行方針の早期策定、児童に対してアンケート調査を実施 ・外部委員による検討委員会の実施 ・吹奏楽・陸上・柔道等の試行実施 ・指導者の地域人材化（OB、企業、NPO等） ・学校施設+地域施設の併用 ・会費制、安全管理・研修の義務化 ・校区を越えて参加可能</p> <p><b>【4. 移行スケジュール（抜粋）】</b> R7：方針決定、クラブ募集 R8：先行3種目の部活動終了 R9：全中学校で部活動終了 →「かこ☆くら」全面移行</p> <p><b>【5. 視察を通じて】</b> 加古川市は令和3年から令和9年まで7年がかりで部活動を完全廃止する移行期間を設けており、段階的な試行と市民に対しても丁寧な説明を重ねている。 旭川市に於いても部活動に関する教員の負担軽減は喫緊の課題であり、加古川市の取り組みは大変に参考になるものと思います。 令和7年3月に部活動地域展開にかかる方針策定し、令和9年7月末で部活動を完全に廃止し、「かこ☆くら」に全面移行すると決めておりますが、旭川市においても同様の決断ができるかどうかは行政面積が6倍あることから相当困難を要することと思いました。 ただ、大胆に部活動からの移行を考えるのであれば、加古川市のように早期に地域移行への方針の策定が必要であり、ロードマップを作成することが求められると思います。 また、児童に対してやってみたい活動のアンケート調査を行っておりますが、現在部活動にない種目も多数見受けられました。地域移行する際に少年団等のある種目であれば対応可能だと思いますが、それ以外の種目への対応が課題であると感じました。 また、加古川市において会費負担は受益者負担とのこと。経済的に困窮する家庭への減免制度については今後の検討となっております。こうした課題を解決せずに、地域移行へと進むのは危険であると感じました。教員の負担軽減、生徒の選択肢の確保、地域人材の活用を柱に段階的に地域移行を検討する上で、大変参考になる視察であった。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	中村 のりゆき
視察地	武蔵野市		
調査事項	武蔵野プレイス		
視察年月日	令和7年11月13日		
視察内容	<p>調査結果に対する総合的な意見（評価・所感）</p> <p>武蔵野プレイスは、単なる図書館でも、公民館でもなく、「知る・学ぶ・交流する・創造する」を一体的に提供できる複合型公共施設の成功事例であると評価できる。</p> <p>特に以下の点は高く評価される。</p> <p>◎ 1) 市民参加に基づく理念形成・施設計画</p> <p>20年以上にわたる市民ワークショップやアンケートにより、子ども・若者・市民の声が施設設計に深く反映されている。「誰が使うのか」「どのように使うのか」が明確で、計画の軸がぶれない。</p> <p>◎ 2) 駅前立地・滞在型空間が利用率を最大化</p> <p>駅前であること、居心地のよい空間構成により、利用者数は年169万人と非常に多く、平日でも5,000人規模の来館がある。公共施設の価値は、立地と空間設計が決定することを示す好例である。また、市民が長時間留まれる空間の魅力である。</p> <p>◎ 3) 青少年支援の手厚さ</p> <p>安価で借り入れできるティーンズスタジオを中心に、居場所づくり、創作・発表の機会、職員による伴走型支援など、専門性の高い若者支援が実践されている。これは他自治体においても参考性が極めて高い。</p> <p>◎ 4) 複合機能連携のメリットが明確</p> <p>図書館×生涯学習×市民活動×若者支援が互いに補完し、単体施設では生まれない価値が創出されている。</p> <p>◎ 5) 利用者満足度が高く、まちのブランドにも寄与</p> <p>満足度90%以上を10年以上継続し、市外利用者が46%を超えるなど、都市魅力の発信拠点として成功している。</p> <p>■最後に、武蔵野プレイスから得られる示唆を、旭川市の状況・課題に照らし、実現可能性の高い取り組みを考えると、旭川市民文化会館の再整備に際して、単独用途ではなく複合用途を検討することは極めて重要だと思いました。</p> <p>特に本市においては若者の居場所づくりが課題であり、武蔵野プレイスの取り組みを参考に機能を強化することが必要だと思います。</p> <p>市民参加型の計画づくりとの観点では、武蔵野市では市民ワークショップが計画の基盤となっており、市民文化会館の建設についても市民参加による理念づくりを検討する必要もあるのではないかと考えます。また、視察を通して都市の魅力発信拠点としてのブランディングを意識することが重要であることも感じましたので、本市でも生かされればと思います。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

## 常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	中村 のりゆき
視察地	大和市		
調査事項	大和市文化創造拠点シリウスについて		
視察年月日	令和7年11月14日		
視察内容	<p>●建設の経緯について</p> <p>既存の学習センターや文化ホールの老朽化により、新たな文化拠点の必要性が高まっていた。当初は、分譲マンションも併設した再開発案があったが、リーマンショックにより頓挫する。その後、平成11年に再開発準備組合が発足、平成18年に都市計画決定、平成19年に組合設立許可、平成21年に公益施設を中心とした事業スキームに変更。平成22年にパブリックコメントを行い、ホールは1,000人規模のものなどの要望を受け事業計画を決定。平成26年より施設建築物工事着工、平成28年11月にグランドオープンしている。</p> <p>●施設の特徴についての所感等</p> <p>図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場等、多機能、複合施設構成となっている。</p> <p>1階から6階まで全館が図書館というコンセプトになっている。全ての図書にICタグが入っており、全ての階に持ち出しが自由となっている。また、1階から5階までに自動貸し出し機がある。また、複数の図書の貸出し並びに返還の際、ICタグが入っていることから、本を重ねても瞬時に判断されるシステムとなっており、利用者の利便性を高めている。</p> <p>若年者の居場所づくりとしても長けており、防音のスタジオが大中小3か所あり、2時間300円から借りることができ利用率も高いとのことであった。</p> <p>また、保育室やげんきっこ広場を完備している。当初は施設利用者のみでの利用だったとのことだが、目的外でも利用できるようにしており、子育て世代の満足度を高めていた。</p> <p>また、指定管理者の発案で、引きこもり対策として漫画コーナーを設置し、カウンセリングを受けられるようにしていることは評価できるものと感じました。文化ホール(1,007席、272席)、ギャラリーホールの利用率も大変高いとのことだった。やまとみらい(共同企業体)として指定管理者制度を採用しているが、6社の構成企業で運営していることから、きめ細かな対応ができ稼働率が高くなっているものと思われる。また、6社が互いに仕事の内容が分かるようにワークショップを行うとともに、接遇講習も年に数回行っているとのこと。また、月2回6社の館長会議、月1回市との連絡会議を行い、市民満足度を向上させる努力をしていることは大変評価できることであり、本市においても指定管理者との連携強化は見習うべきものと感じました。また、この施設があることで若年者の移住獲得にも寄与しているものと考えられる。</p> <p>■最後に、シリウスから得られる示唆を、今後の市民文化会館建設への生かすことを考察すると、若年層を糾合する複合施設化の検討は必須だということ。また、運営ノウハウ、企画力を確保する意味でも指定管理者の構成企業選定も重要である。市民文化会館の建替えは単なる施設更新ではなく、市民の文化活動、交流、子育て支援、まちの賑わいづくりの拠点とすべき。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。